



樺太所感

理學博士 神保小虎

お正月お目出度う本當に〜かめで度う去年と今年一つ年が多くなりました斗りの嬉しさですがその間の大きくなりました加減は大したもの去年までは皆さんは此世界の中で日本人など、粟粒程にも知られませすまわ日本人と云ひましても支那人といひましても同じ事と思はれて西洋の小供の日本人といふ書には日本の古の上下と支那の辮髪が一しよにされて居りました位でしたが今度の戦争で彼の世界で荒鷲のやうだとおそれて居りましたロシアに勝ちついでいつか負けるのマの字も聞かせずに立派な日本魂が小さな軀の中にみち〜て忠君愛國の骨のある日本臣民が此世界の中にある

といふ事を知らせ世界の人の眼を皆丸くさせまして地圖をひろげてどうかと蜻蛉州の姿をふかく眼の底に入れさせました。さあこうなるとその人の風はどんなであらう家は小供はさあどうしたらあつた魂は養はれるのであらうと世界中で君の爲めに命をさしげるといふ事が最も不思議な謎となりいろ〜學者が研究するやうになりまた日本は何んな處かしらなん是非行つて見たいとわざわざ出かけて來ます人が澤山になりました。

その日本の國は南は臺灣から北は千島その端と相對して西の方に樺太島の北緯五十度以南の處までその間に北海道本州四國九州琉球の島がならんで居ります。

その樺太はどんな處でしやう、どんな景色の處でしやう、どんな人が住つた處でしやう、皆さん御存じの北海道の小樽から船でズート露領のアレキサンデルスキーといふ都までゆきましてそれから露國の馬車にのりまして五十度の國境までゆくやうの道順で郵便もその順によりまして國境までゆくやうになつて居ります。

電信は日本から一度露國のウラジラストツクまでゆきそれから樺太にゆくといふやうなまことに不便な處になつて居ります。

こんな處ですが來夏頃までには便利がよくなりますやうにそれ／＼日本の政府からも露西亞の政府からも人が出まして國境を定め路を開いて居ります。

す。

まわその國境はどんなになつて居りましやう。

國境は落葉松ト、松エズ松やシロカンバのやうな針葉樹や濶葉樹の密林で晝なは暗く測量するにも困りますから山といはず谷と間はず人夫が五間半位の廣さに切り開き道をつけて居りますこの林の空所を林空といひます。此林空の道は枝つきの樹が倒れて居ますから開かれました計り歩くには困却するのでその林空の處々に一途しるべのやうにコンクリートでかためました上に土をかけてその上に大理石へ日本領と露領との境界を明かにしたものをかきまして我國と露國との境にしてそれから一步北へ出づれば露國南は日本といふやうにしてあります

北海道にはアイヌが住つて居りますやうにこゝにはキリキク族とオルツコ族とが住んで居ります。其家は木造りの窓は造りつけで夏でも開けぬやうになつて居りますから陰氣ですが夏わさ／＼戸をあけませんでも苦しくないだけ涼しく、七月中華氏五十七度八月中六十一度最高位といふ事で十月に雪がふり手を出して居ますと手が痛くなりますまわ内地の冬中のやう、それで雪は名物今頃はどんなに寒いか知れませんが防寒具がよく出來て居りますから火鉢の側にちいんで居ます考とはちがひましやう、やはり住めば都て冬は銀世界春も半ばは此景色、七月頃には黄色のヒメクワンザウ紅色のハマナス、紫色のヒアフギアヤメなどの野の花黄紅紫にどんなにきれいでしやうかそれも時の間同月末にはヤナギランの紅色を見るやうになりましたつぎへ／＼とはやく幕がかはつて同時に錦を織り出す事はありません。

爰に昨年の種落ちて黄金の花さくも可愛らしき蝶の舞は稀にして羽色美しき鳥にも多く出合はずカクコウ（杜鵑類）の聲鶯の聲は時に耳に入りて

もキリ／＼ス鈴虫の聲は聞こえず鴉雀は少なく蠅と蚊と虻は氣狂うばかりおびたいしく身丈かくるゝ雑草の中など如何計り打ち殺す手の響にたえ間なき様にきこゆ。

四月末に雪見え九月に雪ふり初め六月に柳の芽を出すといへばおよそは察せらるべし。

こゝに住む人は此短い間何を仕事にするのでしやう「まわ」漁業が盛んで鮭鱈鰯をとりラッコアザラシ、オットセイなどを捕る事とそれから有望な石炭採掘にかゝる事と石油をとる事砂金採掘がこれからの仕事で熊は北海道程澤山居ませんから此目的ははづれしやう、次に

學校はどんなでしやうかと云ふと

まわ始業時鐘を村中ならして歩きましてやつと集まつて來ますのが十人位、やかて計算、唱歌書き方などを教へます十三四才より七八才の兒童「二つに三つ足していくら」と問へば答ゆきつまる時に戸外聲あり「五つだつべー」との助言ありやがて荒くれ男は室内に生徒の側らに座すといふ有様昔話などあります中一人立ち二人立ちさわぎ初め

ると先生遊んでよいと命ずる様子なか／＼骨の折るゝ事教育の最も骨折るゝ處にしてまた成功する樂みの多き處なるべしこれがアイヌ教育の一般です我國教育は五ヶ所に小學校を設けて斯う云ふ教育法を行ふ事になつて居ます。

國境の處や内部の處の中には林ばかりの飽きる位の處の外にツンドラといふ濕りました寒い處へ苦か一面に生えて一尺位ツブ／＼にはいるやうな處もあります、又大木の根枝の交つて居ります途を歩き働いて國境をきめて下さる人々これがさまざまありますとまわ昔から近藤重藏といふえらい人や間宮林藏といふ人や近くは松浦何がしといはるゝ方まで親しく船も不便な頃から渡航をせられ日本の

ものになるやうにはかられました事が成り立ちまして日本は北の方へも澤山人民が住み御正月の君か代を歌つて天皇陛下の萬歳を壽ぎ奉るやうになりませす誠に有がたい事ですがたい／＼に一つ氣をつけたい事は夏あたり同じ間樺太ではたらきました人夫の中に日本の側では七十人ばかりの病人が出來ましたのに露國では十人あるかなしでまこ

とに躰がつよく二十八貫目位の大男が少なくない位でありませす。ではそれは食物がちがひましやうロシヤ人は何時でもおきまりにパンと牛肉の罐詰その牛肉もいつも一通の罐詰それで飽きたとも他ものが欲しいともそんな事は云はぬらしい日本の人はとかく食物に小言が多くやれ肉はしつこい菜類がなければゆかぬ何が欲しいこれは飽たとして不養生をして夜ふかしをする、それが躰力をよはくし従つて忍耐力や寛大なる精神に或は乏しいやうになり人の風を見てはぢき美ましがつて表面的な事に走り實際を考へて止まる事をせず一足飛びをしてまたつまらぬ事をはづかしがるのではなからふか物に飽きやすく熱しやすきは我國民の欠點食事の間にも小供にすぎさらひをいはずやうに何んでも食べさせる習慣をつけ着物などもこれあれと着せて見て小供の前で批評するなどは氣をつけねばならぬ事物に飽かぬ精神これは敵國ながら他山の石を玉として入れたきものです。さて日露戦争の有形の紀念たる樺太の有様のあらましはこんなものなほ地理の書物で御らんに

なりましたらばその廣さはどの位で人はいくらといふ事や都港山河の名も岬灣の名もわかりなかなか面白く氣がひろくなりませす此の正月カルタの夜ふかし一夜をこの島の事にはらはれなば如何に我國の爲めうれしき事をして子等の爲めにも有益なるべしと存するのであります。

貯金のすゝめ

麓の塵も積りては 御空に高き芙蓉峰
 葉末の露もたまりては 眺め果なき大平洋
 鉅萬の宮を望みなば 厘毛の微を願みよ
 濡手に粟のつかみ取り 正しき人の願かは
 咲き溢れたる櫻花 やがても散らふためしあり
 満ちたらひたる望の月 忽ちかぐる習あり
 浮世の榮華よそに見て つゆむだ事に費まで
 積り貯へよたゆみなく